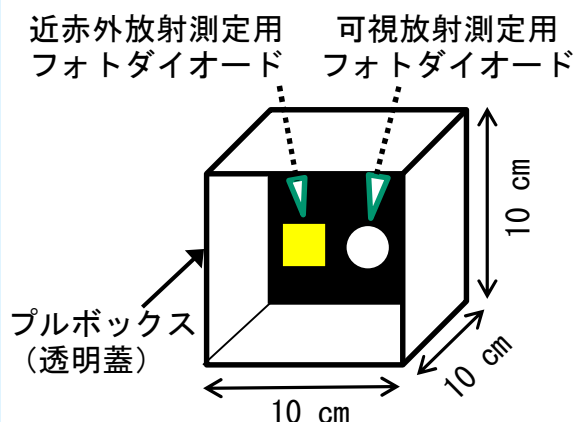


トマトの葉面積が簡単にわかるセンサ

研究課題名：A0Iプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発 令和4～8年

トマトの収量を増やすためには葉面積を増やすことが重要ですが、計測には手間がかかります。そこで、散乱光センサを株内部に設置して透過する光の近赤外光/可視放射光を計測して葉面積を簡単に推定できるセンサを開発しました。

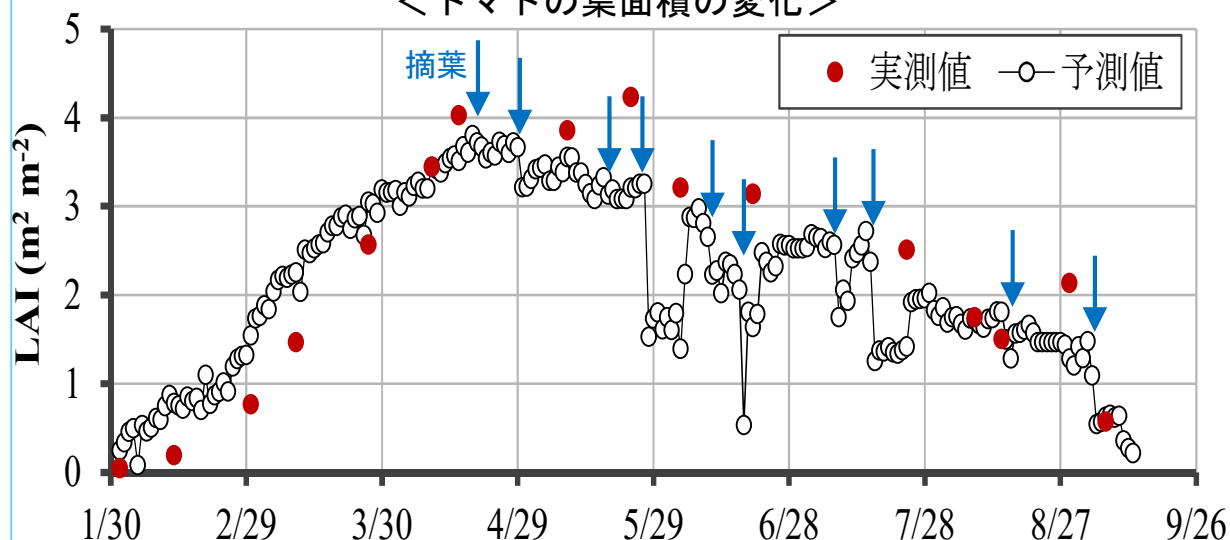
<開発した散乱光センサ>



【株の間にセンサを設置】

- ・ 可視光は葉が多いと減衰しますが近赤外光は減衰しないため、その比を見ることで葉の繁り具合を確認できます。
- ・ 植物の葉面積が大きくなると近赤外光/可視放射光は増加するため、近赤外光/可視放射光から栽培途中のトマトの葉面積（葉面積指数（LAI））が簡単にわかります。

<トマトの葉面積の変化>



- ・ 散乱光センサを用いた近赤外光/可視放射光により葉面積が簡単にわかり、栽培管理（環境制御、摘葉等）に役立てることができます。

【静岡県農林技術研究所 次世代栽培システム科】

TEL: 055-955-9330 e-mail: agrijisedai@pref.shizuoka.lg.jp)